

2022.1.20 (木)  
第22回例会  
(通算3649回)

## 2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平  
副会長 浅川 正紳  
幹事 市橋 多佳丞  
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00  
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル  
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F  
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2021-2022年度  
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度  
RI会長 シェカール・メータ  
第2500地区ガバナー  
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ	職業奉仕月間
本日のプログラム	講師例会「ひがし北海道弟子屈町の地域おこしについて」(担当：プログラム委員会)
次週例会	「日銀の業務と役割」(担当：プログラム委員会)

- ロータリーソング：我等の生業      ■ ソングリーダー：濱口 憲太君
- 会員数    103名
- ビジター    なし
- ゲスト    弟子屈町地域おこし協力隊シティープロモーション活動支援員 川上 椋輔様

### 会長の時間      杉村 莊平会長



皆さん、こんにちは。お食事の方はそのままお続けください。

今日は、以前から新聞等で拝見しておりました川上さんをお迎えできまして、本当に楽しみにしております。わざわざ弟子屈からありがとうございます。

僕の新聞の受け売りであります。川上さんは花形であるUHBのアナウンサーをスパッとお辞めになって、弟子屈町の地域づくり協力隊に応募して、現在頑張っているというお話です。実は今日もう一方来られる予定だったのです。これもまた新聞等で拝見しての受け売りですが、川上さんの小学校からの同級生でJR東海に務められていた高橋さんという方、その方を誘われたら高橋さんも偉いもので、JR東海をスパッと辞められて弟子屈に来られたというストーリーに大変注目しておりました。

工藤プログラム委員長には、年度が始まる前から、願いをして楽しみにしていた例会でございます。本当に楽しみにしております。

細かいお話は後からゆっくりお聞きできるかと思いますが、やはり僕は常日頃から地域の活性化のためには、川上さんたちのように外からの目線を持った熱意のあ

る方と、その活動を理解し応援する地域住民の高い意識との相乗効果が不可欠と思っております。今年のテーマでも、地域を育むというテーマを掲げさせていただいておりますので、われわれもその意識を高められるように今日はしっかり拝聴したいと思います。

僕も弟子屈へよく行きますけれども、昨年10月に美留和駅から硫黄山を眺めまして、川湯温泉駅までトレッキングをしてきました。3時間ぐらいかけてトレッキングをしましたが、最後は川湯温泉駅の中にあるレストラン『オーチャードグラス』で夕食を食べました。駅前は大変賑わっておりましたし、その前日は、川湯に泊まりました。エコミュージアムの前で「川湯の森ナイトミュージアム」というイベントが開かれておりました。そこでクラフトビールや弟子屈町ワインなどを堪能させていただきましたけれども、ここもすごい賑わいでした。

屈斜路湖周辺エリアは、すごい温泉や自然があり、キャンプ・カヌー・登山などのアクティビティも充実しておりますので、いまニセコや富良野がすごい注目を浴びておりますけれども本当の可能性としては、それに匹敵する地域ではないかと考えております。

観光セミナーの受け売りですけれども、この釧路・根室エリアは、千歳発着の道外からの北海道ツアーを2泊3日や3泊4日ぐらいで考えると、十勝エリアまではギリギリそのツアーの範囲内に入りますけれども、釧路・根室エリアは、どうしても千歳発着の2泊3日

ぐらゐのエリアからは届かないエリアだと。ですから、釧路・根室地域が見習うべきは石垣島や宮古島など、その地域を最初から目的にして来る人、この旅の目的となるエリアを目指さなければいけない。そのようなことが重要だと聞いたことがあります。

ですから見ますと、釧路・根室地域ちょうど真ん中に弟子屈町がありますので、川上さんに頑張っていただけ、この弟子屈町を中心としてこの釧路・根室エリアが一体となってどんどんと活性化を図ってもらえればと願って、今日の講演を拝聴したいと思います。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

## 幹事報告 市橋多佳丞幹事



皆さま、こんにちは。私から幹事報告をさせていただきます。他クラブの今週の例会は、お手元にお配りしております例会案内のご一読を

お願いいたします。

また、昨日2月の例会プログラムを皆さまへ送信させていただきました。また夜間例会の案内も皆さまへ送付させていただきましたが、昨日、北海道からまん延防止等重点措置の申請をするという報道等もあり、状況がまだ見通せないところでございます。この後、様々な状況を鑑みて例会スケジュールの変更等があった際には早急にご案内をさせていただきます。多少流動的になるかもしれませんが、ご容赦いただければと思っております。

もう1点です。先日の白幡博君のご母堂様の葬儀に際して、白幡博君よりクラブに対してお礼ということでお気持ちをいただいておりますので、ご報告をさせていただきます。

誠にありがとうございました。以上でございます。

## ■本日のプログラム■ 「ひがし北海道弟子屈町の地域おこしについて」

### プログラム委員会 木下 正明君

委員の木下でございます。杉村会長にご本に他の経歴をほとんど喋られてしまいましたので、簡単に本日も講演いただきますのは、弟子屈町地域おこし協力隊の川上椋輔様です。NHKのテレビも数多く取材をされまして、会員の皆さんはすごく興味深く思っているところだと思いま



す。

題名は『弟子屈での実践、そしてひがし北海道の可能性』。「ひがし北海道」の可能性となっておりますので、ぜひ良い話をお願いいたします。川上さんよろしく願いいたします。

### 弟子屈町地域おこし協力隊シティープロモーション活動支援員 川上 椋輔様

皆さん、こんにちは。平日のこのような時間に素敵



な機会をいただきましてありがとうございます。UHBをキッパリ辞めてきました川上椋輔と申します。

限られた時間ではありますが、いま弟子屈町で私が行っている活動やこのひがし北海道の可能性というところでお話をさせていただければと思います。

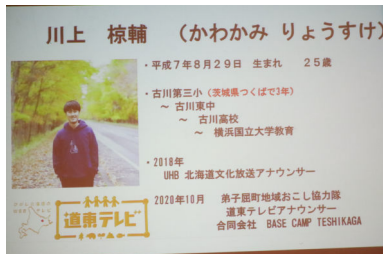
かなりポンポンいきます。私は、川上椋輔という名前です。平成7年生まれで26歳になりました。宮城県で生まれ育ちました。赤字で書いてありますけれど、茨城県のつくば市という所に親の仕事の都合で転校をして3年間過ごしまして、宮城に戻ってきて横浜の大学を出ました。その後、2018年、胆振東部地震が起きた年にUHB北海道文化放送でアナウンサーとして3年ほど務めた後に、現在にいたります弟子屈町で地域おこし協力隊、そして道東テレビというインターネットを使ったこの道東全域の情報を発信しているテレビ局ですけれども、この会社でもアナウンサーとして活動をしています。そして何より、実は、今日この講演が終わり次第、法務局へ行き『合同会社ベースキャンプ弟子屈』という会社の設立をしますので、この3足のワラジを履いているいろいろと活動をしています。

宮城県が出身地ですけれども、大崎市という所に古川という駅があるのですけれども仙台の次に新幹線が停まる街で育ちました。完全に米処です。僕は日本酒が大好きですけれども、「伯樂星」というお酒を造っている会社が僕の実家の近所にあります。

私には、夢があります。日本の地方をより良くしていきたいという思いが小学生ぐらいの時からありました。地方の発展と存続なくして日本の未来はないということも僕は身に染みて感じていました。それが先ほど赤字で書いてあった「つくば市への転校」が大きな大きなきっかけになっています。

何が起こったかという、僕は宮城県の小さな田舎町で育ちました。つくば市は、JAXA宇宙センターがあり、研究学園都市といって研究所がたくさんあって、

医者の子たちなど高学歴層の子どもたちがたくさん育つ街です。僕はそこで、小学校と中1・中学2の間を過ごして、成績も普通の成績で淡々と過ごしていましたが、地元の宮城県に戻った時にテストを受けたら、なんとダントツの1位でした。これがもうおったまげで、茨城県のつくばにいた時は100番ぐらいの



順位の間人間が宮城県のド田舎に帰ったら1番になる。生まれた場所によってこんなにも子どもが育つ環境、周りの環境を含め大きな差がある

のかというところで、僕は地方格差というものを身に染みて感じました。

その後に東日本大震災がありまして、3・11にモロに被災を受けています。そこで政治家の力や行政の力の強さを身に染みて感じました。そのようなところで、小学校6年生にして政治家になりたいという夢を持ち始めました。

そこで「なぜアナウンサーなんだよ」という話になるのですけれど、さらに掘り下げると『しんしん(伸身)の新月面が描く放物線は、栄光への懸け橋だ！ 日本金メダル』という実況を聞いた時に憧れを持った仕事のアナウンサーでして、そこから3・11の時にもテレビを見て、電気がやっと復旧してテレビに映るアナウンサーを見て、「日常の一部になるアナウンサーは素敵なお仕事だな」と思いながらも、何よりもアナウンサーからいま東京の都知事をやっている小池百合子さんや政界へ進む人間に非常に多いルートでもあることで、迷わずして僕はアナウンサーの道を選びました。「では、なぜ北海道なのか」というところですけど、宮城県のアナウンサーになりたいという思いが一番強かったのですが、アナウンサー試験は毎年あるものではなくて、僕の年は宮城県の採用がそもそもなくて、そのような中でいうと、やっぱり北海道というこの場所自体が日本における地域の課題の本当に先進地であって、第一次産業から諸々の産業のいろいろな幅広い分野で活動が行われる方もたくさんいますので、まずはマスメディアというこのテレビの世界から日本の地域の北海道の現状を知りたいという思いでUHBのアナウンサーとしてキャリアを進めました。

UHB時代にいろいろお仕事をさせてもらいました。やはり何よりも、僕が入社して半年後に胆振東部地震が発生しました。この辺りもブラックアウトの被害がおそらくあったかと思いますが、私自身は札幌の清田区の里塚地区という所の取材と中継をずっと続けていました。まさに液化化現象の被害で、半年以上ずっと家が傾いたようなかなり悲惨な状態だった街の取材をしていました。あとは、やっぱり北海道はスポーツが

盛んですので、まさにいま『BIGBOSS』で盛り上がっています北海道日本ハムファイターズやコンサドーレ札幌などのスポーツの実況にも関わっていました。あとは、地域を見たいという思いが非常に強かったので、おそらく皆さんが働かれている間に放送をしている番組・夕方の情報番組で「道の駅を完全制覇自転車でしょう」というプロジェクトをしまして、自転車でするいろいろな道の駅を巡りながら各地域の現状を取材していました。

簡単に言うとアナウンサーとは、やっぱり情報を発信することが何よりも重要であり、使命であり、どちらかというと舞台はスタジオになります。その辺りで、いろいろと気付き始めるのですが、そこでとうとうコロナがやってきました。コロナがやってきて世の中の大きな変容が様々なところで起こり続けていると思うのですが、そうやってきた時に、アナウンサーが新型コロナウイルスになってしまうと結局大バッシングを受ける。一時期、報道ステーションのアナウンサーがコロナになって世間的に「情報を発信する人間がなぜコロナになっているのだ」という大批判があったのですけれども、それによってとうとう「アナウンサーは地域へ取材に行くな」という期間がスタートしました。すると、とうとうコロナ状況下で取材すらできない今の立ち位置は意味があるのだろうか、というところでアナウンサーを辞めよう。ここでキッパリUHBを辞めて、まさにこのコロナ禍といういろいろな社会の変革が起こっている時期に地方・地域の実態を肌身で感じたいという思いで様々なご縁があったこの道東、そして弟子屈町へやってきました。

「なぜアナウンサーを辞めた」といつも質問などをいただく話から簡単にここまで駆け足でお話させてもらいました。

僕は現在、「地域おこし協力隊」という立ち位置で、弟子屈町で活動をしています。ちなみに釧路の皆さんだと身の回りで地域おこし協力隊の方とつながりがある方などはいらっしゃるでしょうか。特にないですかね。地域おこし協力隊という制度、これは総務省の制度でして、まさに人口が集中している都心部から日本のまさに地方・過疎地域と言われる場所

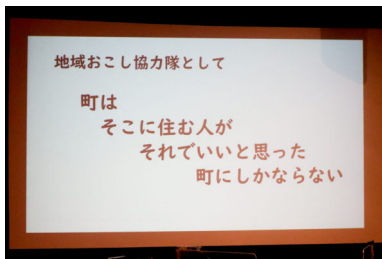


にいろいろな人を送り込んで、国の予算の下で、その地域で様々な活動を行ってくださいという制度になります。ちょっと前までは、役場の一職員として活動をする地域おこし協力隊というイメージが結構強かったのですが、私自身は「個人事業主」という形で弟子屈町に入っています。ですから、弟子屈町役場とは雇用関係は全くない状態なのですが、個人事業主として

国の総務省の制度の下で幅広く活動をさせていただいている状態になります。

何を行っているかという、地域の情報発信ということで、インターネットを使っていろいろな情報が流れていますけれども、その YouTube で弟子屈町の公式チャンネルという形で情報を発信しています。毎週3本ぐらい弟子屈のニュースを配信したり、生配信という形でLIVE配信・生中継をいろいろな場所から行ったりしています。

現在、弟子屈の人口が6,800人ぐらいになってきたのですが、チャンネルの登録者数が3,200人ぐらいなので、もうまもなく人口の半分ぐらいの方がチャンネルを登録してくださっている状態になると思います。ぜひチャンネル登録をしていない方がいらっしやいましたらこの場をお借りしてチャンネル登録をさせていただけたらと思います。



どのようなことを行っているかという、本当に幅広い分野でニュースをつくっています。右上のニュースは、まさに弟子屈で育った昭和の横綱大鵬関のお孫さんにあたる王鵬関が先日十両に昇進しましたが、このニュースは実はもう既に60,000回ぐらい再生されています。たった6,000人の街の小さなニュースが60,000人という世界中の人に見られているところに僕はますますごくロマンを感じています。

左下は、これも全国的にはほぼ初めての取り組みだったのですが、弟子屈町の徳永町長に生配信に出てくださいました。正直なところ、徳永町長はYouTubeをあまり分かっていないので、すぐに「出るよ、出るよ」と言っていました。意外と自治体のトップがYouTubeの生配信に出ると大体が炎上します。「なぜ街のあれをやっている」とか「街の情勢はどうなっている」という話になりかねませんが、そこは徳永町長、あまりよく分からないという状態がラッキーでして、出てください地元の皆さんから直にいろいろな質問をいただきました。良い面も含め悪い面も含め、そのまま僕が間に入って町長に質問を投げかけるといったことが、かなり全国的にも新しい取り組みということで、いろいろなメディアでも取り上げていただきました。大きく炎上をすることもなく無事に終わったので、また次回行いたいと思っています。

先ほど、お話をいただきましたが、NHKさんや地方メディアの皆さんもこのチャンネル自体は注目をしていただいている、先日1カ月間密着の取材なども行われました。「この情報発信をしている理由は何でしょうか」とよく問われますが、もちろんこのひがし北海道

道や弟子屈町の魅力や現在地を世界中に広めたいという思いはありますが、それ以上に、僕自身が非常に大切にしている言葉があります。それはこの言葉です。「街は、そこに住む人が、それで良いと思った街にしかない」という言葉でして、これは何の言葉かと言うと、僕が東日本大震災で被災をした時に、沿岸部の石巻にボランティアに行った時に、街の60代ぐらいのおじさんから言われた言葉です。いまでも鮮明に覚えていて、いまでも僕の中で一番大事にしている言葉ですが、3・11の被災を受けた津波の現場で、僕自身も若い何物でもない自分がいろいろなことを行っていく中で、最後の最後に挨拶をした時に、「ボランティアをしてくれてありがとう」という言葉を受けるのかなと勝手に思っていたら、そこでおじちゃんが「お前はこのボランティアをしてくれたけれど、この街にとっては何にもならないから、お前らがどんなことをやってもこの街は変わらないから」と言われました。このおじは何を言うのだと僕は思いましたが、その後その男性が言った言葉が「ここに住んでいる俺らが、この街をどうするのかをきちんと考えないと、この街は変わらねえんだ」と、ザクッと言われたわけです。その時に僕はもうまさにそこにすべてがこもっているという思いでこの言葉を大切にいまも活動をしています。

なので、いろいろな弟子屈やこのひがし北海道の情報を発信はするのですが、僕らの気持ちとしては、誰に届けているのかということ、まさに弟子屈の皆さんに届けています。改めて地域のことを知ってもらいながらも、意外とその街に住んでいると自分が住んでいるエリアを全く知らない。弟子屈に住んでいる方は、摩周湖にあまり行ったことがない、とか硫黄山、川湯温泉に入ったことがないという方がかなりいらっしやいます。僕らからすると、なんてことを言っているのだという状態です。改めてその地域に住んでいる地域の皆さんの心が、どういう思いでその地域を思うのかが、何よりも大事なのではないかと思っています。そのようなところで、いまも、今後も弟子屈そしてこのひがし北海道の情報の発信を続けて行けたらと思っています。

かなり駆け足になっていますが、これから何を行っていくのかということで、まさに『今後のひがし北海道の可能性』も踏まえてお話をさせていただきます。おそらく釧路市さんも含めて、この道東一帯も同じような状況なのではないかと思いますが、いま弟子屈で顕著に起こっていることとして、圧倒的に若い移住者が本当に増えています。今年の4月だけでも20代の方が15人ぐらい移住をして来ています。また今月も5人ぐらい僕の知り合いがやって来ますが、とうとうインターネットの環境が整ってきて、コロナによってリモートワークが進んだ中で、特に若い世代が自然の

中で豊かに生活をしながら仕事をしたいという思いから若者の移住者の声がどんどん挙がってきています。

そうした中で、街の現状に目を向けてみると、どの事業者さんと話をしても「そもそも働き手がない」「後継者すらいない」「次期社長を本気で探している」という事業者の皆さんもたくさんいらっしゃいます。かつ「住む場所がない」。釧路市さんはまだまだたくさんあるのかもしれませんが、弟子屈町は賃貸住宅がほぼ終始満員状態で、気軽に弟子屈に住もうと思った時に住める場所がいま全くないような状態になっています。ですが、空き家は非常に多いというところに僕自身も非常にジレンマを感じています。

そうした中で、何が重要になってくるのかというと、とうとうこちらへ来たい、こちらで生活をしたい、という方々と実際に現地で活動をされている事業者の皆さまをマッチングすることができるかどうか非常に重要になってくるのではないのかと感じています。ということで、場所と人をしっかり確保したいというところで、いま自分自身が弟子屈町の役場の人間でもあり、個人事業主として民間の人間でもある、という非常に特殊な立ち位置にいますので、この立場を上手く使いながらこのマッチングができる場所、そしてマッチングができる制度をしっかりと形にしていけたらと思っています。

実際に僕も空き家を買いました。街の中心部にある整骨院ですけれども摩周駅から徒歩1分ぐらい。弟子屈町役場から徒歩1分ぐらいの場所にある立地的には良い場所です。この場所は元々整骨院の店舗兼住宅で、弟子屈ならではの温泉付き住宅美容室もセットで、言ってしまうと非常に広い軒家になっております。この場所を今後リフォームして、先ほど言ったようなマッチングができるような場所に変えて行こうという状態にいま入っています。

勝手に工事を行って「完成しました。マッチング、人と人がつながる場所です」と言っても正直あまり面白くないというか、ただ「若い奴らが何かをやって、できたっばいね」となってしまうので、いま街の皆さんを総動員して改装作業を行っています。美容室部分はこのように感じに変わりました。右側はいま街の情報発信のスタジオとして使っています。そしてもうひとつは整骨院だったので、おおよそ30畳ぐらいある広いスペースなので、このエリアをいま街のいろいろな人々を巻き込んでリフォーム・リノベーションを行っています。

今日この講演の機会があったので、いままで関わってくれた方の人数を調べたら89人で、残り1カ月ぐらいで完成を目指しているのですが、100人ぐらいはいきたいといういろいろな人に声をかけながら一緒に作っていきたくと思っています。いまこのような感じになっています。

この場所を4月からは、いろいろな用途で使っていくのです。一番上にあるコワーキングスペースというのが俗に言うインターネットの環境を整えて、特に若い世代がここに集って仕事ができる環境として定住をしていくということと、フリースペースということで、ここは逆に言うと街の皆さんにも使ってもらえるような場所。夜は僕が、お酒が大好きなので、BARを開きたいと思っています。

この下の3つが非常に重要になってくるのですが、そのような民間のお店でありながらも行政側の視点を持った施設として動かしていきます。移住・定住の総合窓口として、かつ空き家の相談窓口として、そしていま既に始まっている情報の発信拠点として。なので、弟子屈と何かの関わりを持ちたいと思った方々が、とりあえずは玄関口としてこの場所を使ってもらえれば、まずは移住、そして定住、働き手・働き口、そして住まいの情報もここは行政側としっかりタッグを組んで提供できるような場所にして行けたらと思っています。

最後になってくるのですが、ひがし北海道・弟子屈での活動を通して1年ぐらい過ごした中ですごく感じる部分ですが、特にひがし北海道はここに当てはまると思っているのです。いまコロナ禍を経て、特に20代30代前半の方々とお話をしていると、「高級車を所有したい」「港区にある高級マンションに住む」「会社で出世をする」「俺は名声を獲得してこういう地位に上り詰める」という話があり出て来なくて、どちらかというと本当に皆さん心の底から「いまコロナ禍での自分自身の生き方はどうなのだろうか」「自分はいまどう社会に貢献しているのだろうか」「身の回りの地域や身の廻りの人との関係性」「SDGsを含めた持続可能な今後の地球の未来について」「今まで日本で語り継がれてきた歴史・背景をどう今後についでいくのか」と、簡単に言うと「公」精神を持った若者が非常に多いと僕自身すごく感じています。

そうやってきた時にひがし北海道は、実はすごく「関わりしろ」がたくさんある場所だと思っています。関わりしろは、実際に僕が現地で過ごしていると本当に「後継者がいない」「働き手もない」「いろいろなものを若い人に含めて託したいけれども託す先が見当たらない」など、いろいろ課題はあると感じています。逆に道東の課題が何かということがあまり本州にいる人間は見えていないところもあると思っていますので、この「助けてほしい」というところをきちんと見える化していくことも非常にこのひがし北海道においては大事だと思います。どうしても「釧路から大きな会社が撤退した」というニュースばかりが流れてしまって、その先に釧路はいま何を求めているのかが正直あまり見えてこないのも僕はひとつ課題だと思っています。アナウンサー時代、よく取材をさせていただきました

鈴木直道知事は、よく「ピンチをチャンスに」と口酸っぱくおっしゃるのですが、僕個人としてはピンチをチャンスと言うより、「いま置かれたピンチをどうクイズにして、そしてそのクイズを解き明かす答えにどのような人を巻き込んでいけるのか」という発想がいまこのひがし北海道には求められているのではないかと感じています。

いま自分自身が、弟子屈町、そしてこのひがし北海道という舞台で社会の1つのピースとして活動ができていることにすごくやりがいを感じていますし、そこにご支援をいただく街の皆さんや、様々な地域の皆さんの助けてくださるお気持ち、そのような支援をしていただけたところもひがし北海道の魅力だと思っています。このような「公」がすごく近くにある環境で、20代から活動を幅広くできるのだよと今後も日本全国の若年層に向けて届けていきたいと思っています。そうした中では、弟子屈だけと言うよりも、このひがし北海道で多くの事業を行っている皆さまとの連携というところも来年度は、僕自身の法人も踏まえている模索をしていきたいと思っております。

いきなりお仕事みたいなお話になりますが、今日も道東テレビという会社でお仕事をしています。午前中は津別町で番組の撮影を行った後に釧路へ来て、このあと清里町へ行ってお仕事をさせていただきます。弟子屈町の徳永町長も「弟子屈だけの活動に止まるな」と。弟子屈の協力隊という立場ではありますが、「道東一帯、このひがし北海道を含めて連携をして活動をして行け」と町長からもお話を伺っていますので、まずは情報のPRみたいなところ、個人的には、来年度は不動産事業も含めて空き家の問題にかなりフォーカスを置いて活動をして行こうと思っています。空き家に関して言うと、この釧路管内も含めてかなり深刻な問題と思うので、広域な活動を視野に入れて動いています。連携ができることなど、逆に僕たちの方で協力ができることがあれば何かしらの形で連携をさせていただければと思っています。

中標津の方で既に、空き家の先駆的な事例を行っている会社さんが1つあります。そこが行っていることは、空き家自体を買い取ってしまうという所です。やっぱり「空き家を手放せない」「手放すきっかけがない」「手放すことがすごく面倒くさい」が所有者の皆さんの核心めいたところだと思うので、そのあたりの情報収集をしっかりとしながら、こちらのリスクはありますが、一旦買い取って、いまの若い人たちはリフォームが大好きで、リノベーションという言葉があるように不動

産を完璧な状態にしない方がいい、ニーズが高いと中標津の会社が実際に示しています。昨年だけで80軒の空き家を買って、既に75軒稼働しているという意味が分からない状況になっていまして、そこ絡みながら弟子屈の方でも空き家の事業を進めていきたいと思っています。

そのほかにも弟子屈の非常に潤っているある会社ですが、後継者に来てほしい、東京の同業者の若手が来て跡を継ぎたいという案件もあり、それだけこの地域が密接に関わっている、かつ人口が減少しているこのひがし北海道というエリアでは、何かそのような打ち出し、そのような層にきちんと届くことがあれば、その人材の問題や後継者の問題も何かしら面白いアプローチができるのではないかと考えています。そのような見える化も来年度はしっかりやってみて、どのような結果になるかは分かりませんが、その後継者問題も少し深く介入をして活動をして行けたらと思っています。

かなり駆け足にはなりましたが、ぜひ今後とも私自身も弟子屈そしてひがし北海道で様々な活動を続けていきますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。本日は、ありがとうございました。

#### 会長謝辞 杉村 莊平会長

川上さん、今日はありがとうございました。期待をしていた以上のお話を聞きできまして、われわれも気付きというかヒントというか、われわれも頑張らなければいけないと皆さんが思う例会になったと思っています。

その街は、その街に住む人が、それで良いと思った街にしかならないということで、まさに本当にそのとおりだと思います。いわゆる民度と言いますか、街に住むわれわれ人間の民度を上げていくと言いますか。意識を上げていくことは本当に大事なことだと思います。

僕も取って付けた訳ではないですが、このロータリークラブがあるにはやっぱり地域がある。地域を育てロータリーを楽しむと思っております。

本当に良いお話を聞けたと思います。ぜひまた今後とも釧路・根室・ひがし北海道のために頑張ってください、ここには力のあるおじさんたちも結構いますから、何年後か分かりませんが、政界進出の暁には応援してくれる方がいろいろいるのではないかと思いますから、それも含めてぜひ地域に根を張ってこれからも頑張ってくださいと思います。

#### 本日のニコニコ献金

■白幡 博君 御礼

今年度累計 456,000 円